

研究上の不正に関する適切な な対応について

平成18年2月28日
総合科学技術会議

1. 研究上の不正がもたらす悪影響

画期的な研究成果として発表

ペインテッド
マウス事件
(米国 1974)
異なる種のマウスの
皮膚の移植に成功

ベル研シヨーン
事件
(米国 1998-2001)
高性能トランジスタ
を新素材で開発する
ことに成功

ヒトES細胞
事件
(韓国 2005)
人クローン胚から
ES細胞の作成に
成功

不正
悪影響



科学技術に対する信頼性の喪失
関連する研究活動の停滞

2 . 総合科学技術会議の対応

「科学技術に関する基本政策について」に対する答申（H17.12）

第4章 社会・国民に支持される科学技術

1 . 科学技術が及ぼす倫理的・法的・社会的課題への責任ある取組

実験データの捏造等の研究者の倫理問題・・・国及び研究者コミュニティ等は、ルールを作成し、科学技術を担う者がこうしたルールにのっとり活動・・・総合科学技術会議は関係府省と連携をとりつつ、先見性を持って基本ルール作りに関与・・・。

具体化

総合科学技術会議

対応を求める

研究者コミュニティ
関係府省
大学・研究機関

3 . 決定・意見具申

研究に関わる者の自律が基本

日本学術会議
研究者組織

研究者コミュニティ全体として研究に関わる者の自律性を高めるべく対応

大学
研究機関

調査・処分の手続き等に関し、規定を定め、関係者に周知
適切な研究活動の在り方の指導・徹底

関係府省等

研究費の取り扱いの明確化
研究費の配分先となる組織に対し、規定の策定、不正防止対応を求める

総合科学技術会議が
フォローアップ（本年夏目途）